

書評

編集・発行
関西大学生生活協同組合
組織部
「書評」編集委員会
編集人 田村民夫
吹田市千里山417
TEL 388-1121
内線 776

原稿募集

▼関大アカデミズムの
再建にむけて
▼関大唯一の書評
専門誌
書評委員会まで

『三太郎の日記』とその周辺

阿部次郎の社会思想

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

唯心論的ユートピア

社会変革の思想と結合を

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

もどかした以上、社会思想の中心に於いて、阿部次郎の思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

戦後思想を大成
「戦後日本思想大系」
戦後十数年の思想界の中心人物として、阿部次郎の思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

- ①戦後思想の出現(白鳥重吉)
- ②三太郎(阿部次郎)
- ③平和の思想(梶野隆)
- ④国家の思想(金本隆雄)
- ⑤阿部次郎の思想(阿部次郎)
- ⑥阿部次郎の思想(阿部次郎)
- ⑦阿部次郎の思想(阿部次郎)
- ⑧阿部次郎の思想(阿部次郎)
- ⑨阿部次郎の思想(阿部次郎)
- ⑩阿部次郎の思想(阿部次郎)

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

「阿部次郎全集」全一七巻

「阿部次郎全集」全一七巻
「三太郎の日記補遺」(二八〇円)
「人格主義」(文庫版・九〇円)
「合本・三太郎の日記」(二八〇円)
角川書店版

阿部次郎の『三太郎の日記』は、その代表的な著作である。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。阿部次郎の社会思想は、戦前戦中戦後を通じて、常に時代を先取りして、鋭く批判的であり、また、建設的であった。『三太郎の日記』は、阿部次郎の社会思想の精華を、その日記の形式で、生々しく、そして、時に痛切なまでに表現している。

